

平成26年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立清原北小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成26年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成26年4月22日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年(国語、算数、理科、質問紙)

中学校 第2学年 (国語、社会、数学、理科、英語、質問紙)

4 本校の参加状況

第4学年	国語	20人	算数	20人	理科	20人
第5学年	国語	18人	算数	18人	理科	18人

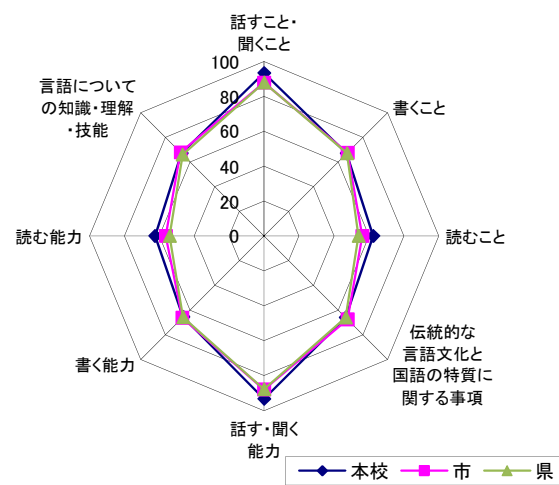
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立清原北小学校第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	93.3	87.9	87.8
	書くこと	66.9	67.6	67.1
	読むこと	62.5	56.3	54.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	66.0	67.6	66.0
観点	話す・聞く能力	93.3	87.9	87.8
	書く能力	65.6	66.3	65.7
	読む能力	62.5	56.3	54.1
	言語についての知識・理解・技能	66.9	67.7	66.0



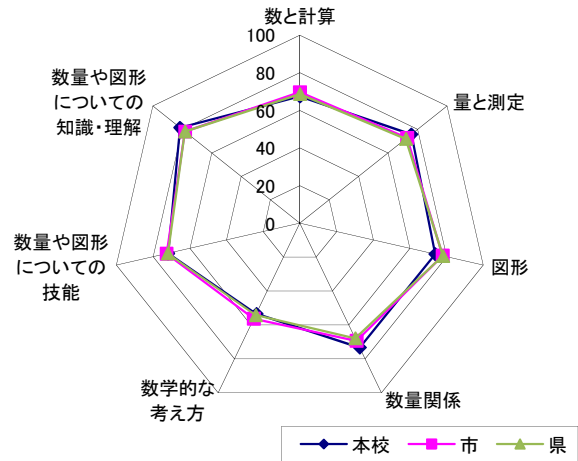
★指導の工夫と改善 ○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○話の中心に気をつけて聞くことは、全員がよくできている。 ●話し方の工夫については、聞き取れていない児童もいた。	・日常的に「話す、聞く」活動を取り入れ、話の要点の聞き取り方や内容を聞き取りやすい話し方について、継続して指導する。
書くこと	○招待する手紙を敬体で書くことや、お願いする言葉を書くことは理解している。 ●招待する手紙の形式を理解できていない児童が多い。伝えたい事柄を正確に伝えられるように注意して書くことが十分にできていない。	・学習や学校行事の際に、招待状を書く機会を設け、手紙の形式に則って書いたり、伝えたい事柄を明確にして書いたりする練習を継続して行う。
読むこと	○説明文の内容を理解することは、市の正答率を上回っている。 ●登場人物の気持ちを想像して読むことや、与えられた情報から資料の特徴を理解することが十分とは言えない。	・文脈に沿って、場面の様子や登場人物の気持ちを読み取っていく指導を続ける。 ・身の回りのポスター資料などを使って日常的に読み取る練習をするなど、理解を高める工夫をする。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○ローマ字の理解はできている児童が多く、市の正答率を上回っている。 ●既習漢字の定着が不十分である。 ●反対語や指示語の使い方の理解が十分とは言えない。	・新出漢字の習得だけでなく、既習漢字を反復練習することにより、漢字の読みや書きの定着を図る。 ・反対語や指示語などの使い方を、国語の時間を中心に、継続して指導することで定着を図る。

宇都宮市立清原北小学校第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	67.5	69.6	68.7
	量と測定	75.8	72.8	72.0
	図形	73.8	77.8	78.0
	数量関係	73.3	69.4	67.8
観点	数学的な考え方	53.4	56.3	54.2
	数量や図形についての技能	71.8	72.7	72.0
	数量や図形についての知識・理解	81.5	78.2	78.1



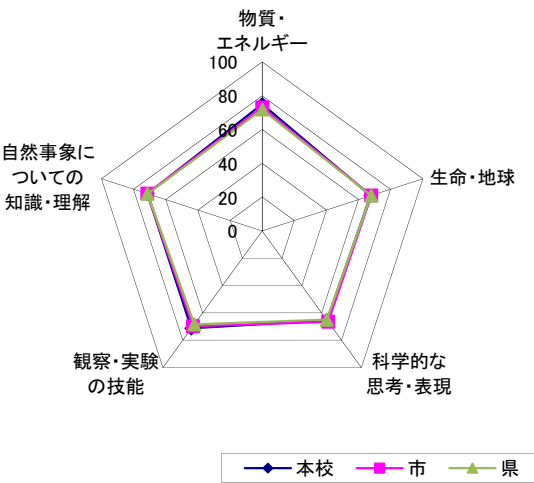
★指導の工夫と改善 ○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○数の相対的な大きさや、分数の仕組みなどについては市の正答率を大幅に上回っている。 ●計算の技能については十分に身につけているとは言えない。 ●()を使った式と場面を結びつけることや、解き方の理由を説明することが十分に理解できていない。	・既習事項の復習を行う。理解が不十分な児童には個別に繰り返して指導する。 ・算数の授業において、計算だけでなく、その理由などを言葉で説明する機会を設け、答え方に慣れさせることにより、自信をもって答えられるようにする。
量と測定	○時間や長さの単位の関係や重さの推察については市の正答率を上回っている。 ●時刻を求めることが十分ではない児童がいる。	・基礎的な内容だけでなく、発展的な学習も多く取り入れ、習熟を図る。
図形	○二等辺三角形の定義をよく理解している。 ●球の半径、直径の関係が十分に理解できていない。 ●正三角形の作図の正答率が市を下回っている。	・図形の性質や、作図について既習事項の復習を十分に行う。 ・折に触れて既習事項の練習問題を出し、忘れていた事項を思い出せるようにし、定着を図る。
数量関係	○わり算や棒グラフの読み取りは、市の正答率を上回っている。 ●□を使った式の意味の理解が十分とは言えない。	・既習事項の復習を行う。理解が不十分な児童には同様の問題を使用した反復練習を行い、定着を図る。

宇都宮市立清原北小学校第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	75.0	73.1	71.8
	生命・地球	67.5	67.9	67.8
観点	科学的な思考・表現	65.3	66.5	65.0
	観察・実験の技能	71.3	69.7	68.4
	自然事象についての知識・理解	71.4	71.6	71.4



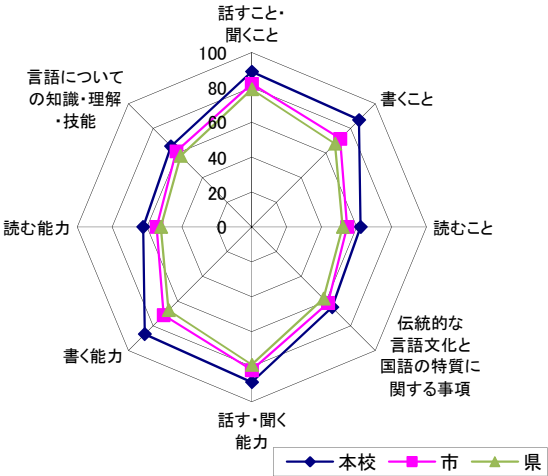
★指導の工夫と改善 ○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	○物の重さ、風やゴムのはたらき、光のせいしつについての理解はよくできている。 ●回路の意味の理解が十分でない児童がいる。 ●銅の性質について理由を説明する力が身に付いていない。	・問題の意味を理解できていない児童も多いので、国語や読書指導で文章を読み取る力をつけるとともに、多くの問題に触れる機会を設け、問題の趣旨を読み取れるようにする。 ・説明の範例を示すとともに、授業中に考えや実験の結果を言葉で説明すること取り入れる。
生命・地球	○身の回りの昆虫や植物については、理解できている児童が多い。 ●太陽の動きと影の動きを関連付けて考えることが十分でない。 ●地面の温度の測り方など、基礎的な実験方法の理解が十分ではない。	・基礎的な知識の確認を行い、練習問題などで定着を図る。 ・図の見方や選択問題の内容を読み取るポイントを見つけられるよう継続的に指導する。

宇都宮市立清原北小学校第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	88.9	82.0	78.9
	書くこと	86.8	71.5	67.4
	読むこと	62.3	54.6	52.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	65.0	61.7	58.1
観点	話す・聞く能力	88.9	82.0	78.9
	書く能力	86.8	71.5	67.4
	読む能力	62.3	54.6	52.1
	言語についての知識・理解・技能	65.5	61.3	57.7



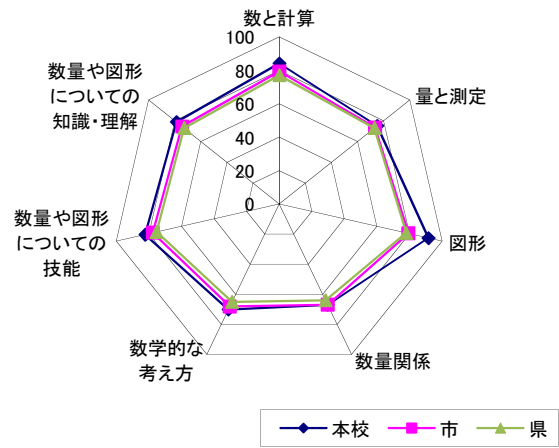
★指導の工夫と改善 ○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○相手の話の中心に気をつけて聞くことができる。 ●話し合いにおける司会者の進め方の工夫について聞きとれない児童も見られる。	・司会者となった時、どんな点に気をつけて話し合いを進めていくとよいかを考える機会をつくる。また、話を聞く時は、相手がどんなことを言いたいのかを意識して聞くよう継続的に指導していく。
書くこと	○自分の意見を明確にして書くことができる。 ●段落の意味を十分に理解できておらず、2段落構成で文章を書くことができない児童もいる。	・段落の意味や役割について確認するとともに、作文指導の際に、文章全体の構成を考え、それぞれの段落の役割や段落相互の関係を意識しながら文章を書くよう指導していく。
読むこと	○物語文では、叙述を基に登場人物の気持ちを想像して読むことができる。 ●説明文において段落相互の関係に注意して文章を読むことができない児童も見られる。 ●物語文では、場面の様子について十分に読み取ることができない児童が多い。	・説明文において段落ごとの要点を考えるとともに、接続語や大切な言葉に着目しながら、段落の関係について考える場を設定していく。 ・物語文の学習では、登場人物の性格や気持ちの変化、情景、場面の様子などについて叙述をもとに豊かに想像して読み進めるよう指導していく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○漢字辞典の使い方や修飾語などについては、理解できている。 ●漢字の読み書きとともに、市の平均をやや下回っている。既習の漢字を忘れてしまっている児童が多い。	・計画的に復習する機会を作っていく。また、学習した漢字を正しく理解できるよう、反復練習をさせていく。1つの漢字でも複数の熟語がある場合、それらも確認し、語彙を広められるようにしていく。

宇都宮市立清原北小学校第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	84.2	79.3	77.1
	量と測定	75.0	73.4	72.9
	図形	91.7	79.4	78.0
	数量関係	67.0	67.0	64.0
観点	数学的な考え方	70.2	68.2	65.1
	数量や図形についての技能	82.4	77.7	75.4
	数量や図形についての知識・理解	78.6	74.5	72.8



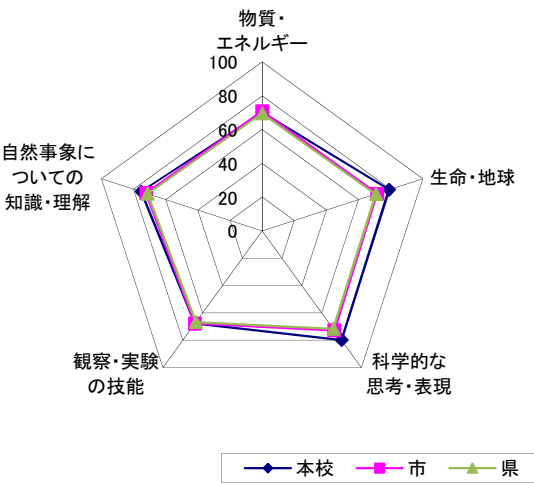
★指導の工夫と改善 ,○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○基本的な計算の仕方を理解できている。 ●3位数÷2位数の問題で、商に空位があったり、余りがあったりする計算の仕方について十分に理解していない児童も見られる。 ●図を使って、倍とわり算の文章問題に合った式を選ぶことができない児童も見られる。	・基本的な計算の仕方をおおむね理解していることにより、過信して計算が雑になることがあるため、慎重に計算するよう指導していく。また、計算の細かなところまできちんとできるよう反復練習していく。 ・問題文を読み、意味を理解できるよう読書の量を増やし、読解力を高めていく。
量と測定	○長方形の面積の求め方を正確に理解できている。 ●面積の㎡とcm²の単位の関係をきちんと理解できていない児童が多く見られる。	・図をもとに㎡とcm²の単位の意味を確認する。単位の関係について理解できていなくても作図により正答を導くことができるよう、練習していく。
図形	○見取図や展開図について、正しく理解している児童が多い。 ●ひし形の作図が苦手な児童も見られる。	・ひし形(他の図形も)の特徴を確認し、口に出して説明できるようにする。また、作図の基本となる定規や分度器などの使い方が正しくできるよう練習していく。
数量関係	○折れ線グラフや表を正しく読み取り、説明することができる児童が多く見られる。 ●四則混合で()を用いた式の計算や分配法則を使った計算の仕方を理解できていない児童も見られる。 ●棒グラフと折れ線グラフを比べ、2つのグラフが同じでないことを説明できた児童は少ない。	・()を用いた式や分配法則を使った式の意味を理解させるとともに、()や分配法則を使った式の便利さに気付けるようにする。 ・グラフが表しているものは、どんなことなのか細部まで丁寧に読み取れるよう、社会の資料なども活用して復習していく。

宇都宮市立清原北小学校第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	70.1	70.8	69.5
	生命・地球	78.9	71.5	70.8
観点	科学的な思考・表現	79.9	72.8	71.7
	観察・実験の技能	67.8	67.8	66.8
	自然事象についての知識・理解	75.3	72.3	71.4



★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	○様々な形状の金属を熱したときの温まり方について、考えることができる児童が多い。 ●アルコールランプの安全な使い方について理解できていない児童も見られる。 ●水が沸騰して水中から出てくるあわが水蒸気であることを理解できていない児童が多く見られる。 ●2個の乾電池の直列つなぎがを作図することができない児童が多かった。	・実験には危険を伴うものもあることを理解させ、安全に対する意識を高めるとともに実験器具の正しい使い方を確認していく。 ・水の性質を確認し、確認テストなどで知識を定着させていく。 ・直列つなぎ、並列つなぎのつなぎ方を実物を使って確認し、豆電球の明るさやプロペラの速さについて実感を伴った学習をしていく。
生命・地球	○植物の1年間の成長の様子を理解できている児童が多い。 ○月の1日のうちに東から西へ動くことを理解できていいる。 ●月と星の学習で1か月後の月の形を予測することができない児童も見られる。 ●気温の正しい測り方が理解できていない児童が見られた。	・月や星に関心をもたせ、基本事項の確認と月の見え方を復習する。 ・気温を正しい図り方を確認し、実際に図ってみる。

宇都宮市立清原北小学校第4学年児童質問紙調査

★傾向 ○良好なもの ●課題が見られるもの

○学習に関する質問にはほとんどの項目で、肯定割合が高い。学習への意欲が高く、話し合い活動にも積極的に参加している。

○「自分はクラスの人に役立っている」、「自分の行動や発言に自信をもっている」などの質問の肯定割合が高く、自己肯定感が高いことが分かる。自信が継続できるよう励まして指導していく。

○ルールやマナーを守ったり、身の周りのことを自分で行うことがよくできているという回答が多かった。できていることを認め、継続していけるよう励ます。

●「家で学校の授業の予習をしている」という質問に対する児童の肯定的割合が低かった。復習中心の学習をしていることが伺える。教科書を読むなどの予習の仕方を指導し、奨励していく。

●「家の人と学校でのできごとについて話をしている」「家の人と将来のことについて話すことがある」という質問に対しての肯定的割合が市よりも低い。家庭との連携をとり、情報交換をしたり、児童に家庭で家族と話をする機会を意図的に設けるようにする。

宇都宮市立清原北小学校第5学年児童質問紙調査

★傾向

○良好なもの ●課題が見られるもの

- 自分の行動や発言に自信がある, 自分の考えや意見を発表することが得意, グループでの話し合いに進んで参加できるなど, 自分を表現することに関する質問に対して肯定的割合が高い。
- 「将来の夢や目標がある」, 「社会のために役立つよい人になりたい」の質問に対する肯定割合が高く, 将来への意欲的な姿が見られる。
- 「家で, まちがえた問題について勉強している」という質問に対し, 「いいえ」と答えた児童が多かった。まちがえた問題は修正し, きちんと理解を深めていく必要がある。
- 「むずかしい問題にであうと, やる気がでる」という質問に対する肯定的割合は低い。普段の生活の中で諦めない気持ちや根気強さ, 努力することの大切さなどを継続的に指導していく。
- 地域や社会への関心が低く, 「地域社会等でボランティア活動に参加したことがある」の質問に対する肯定的割合は低い。地域の一員であることの自覚をもたせるとともに, 地域のよさについて調べたり, 考えたりする機会をつくっていく。
- 算数や理科の授業で学習したことをふだんの生活の中で活用できるか, 考えている児童は少ない。学習したことを生かせる場面を意図的に設けていくとともに, 学習の中でどんな場面で活用できるか考える場面をつくっていく。